

＊ 酬恩庵一休寺

一休さんこと一休宗純のお寺として親しまれている酬恩庵一休寺。一休宗純は、ここ一休寺を拠点として波乱万丈の人生を終えました。お寺には名勝地に指定されている方丈庭園や、重要文化財に指定されている本堂があります。秋になると紅葉が美しく、季節ごとの風情を感じることができます。また、子供の姿の一休さんだけでなく、晩年の姿が見られる像もあるので、是非探してみてください。



＊ 薪神社

一休寺からほど近い場所にある薪神社。御祭神は天津彦根命と応神天皇です。境内には、元々甘南備山頂にある月読神が仮の姿をとって現れたと伝わる石も祀られています。また、薪神社の境内や一休寺門前付近には、能楽発祥の碑があります。この付近で、室町時代の能役者である金春禅竹が一休宗純に猿楽の能を演じたことから、薪能の発祥の地と伝えられています。

＊ 棚倉孫神社

棚倉孫神社は、京田辺市田辺棚倉に位置しています。「棚倉」とは、穀物を収蔵する倉庫を意味し、養蚕にも用いられました。棚倉孫神社では、神からのお告げのおかげで難を逃れられたことを感謝する日として、2年に1度の10月に瑞饋（ずいき）神輿が区内を巡行しています。瑞饋神輿には、屋根葺き材となっているサトイモの葉柄をはじめ、白米や豆、唐辛子、金柑など約30種類ほどの野菜や穀物などが飾り付けられており、五穀豊穡を祈願しています。

＊ 大御堂観音寺

京田辺を代表する寺院であり、歴史的な観光資源の一つです。ご本尊の十一面観音立像は、奈良時代の木心乾漆造のもので国宝に指定されており、天平文化を代表する名作です。またかつての大伽藍規模は非常に大きく、その栄華の様子は絵図にも描かれています。春は桜と菜の花、秋は紅葉の名所としても知られています。



＊ 寿宝寺

実際に千本の手を持つ「千手観音像」は日本に三体しかありませんが、そのうちの一体は寿宝寺で本尊として祀られており、国指定の重要文化財に指定されています。観音像は、光の加減によって表情の変化を見せてくれます。また、寿宝寺のすぐそばには中国の古代駅舎を取り入れた、日本で最初に設置された重要な駅家（うまや）の跡があります。



＊ マンボ

JR学研都市線の電車からは、京田辺周辺で何箇所かレンガ造りのアーチ橋をくぐる様子を見ることができます。このアーチ橋の上には、天井川が流れており、京田辺の特徴的な景観を構成しています。この川の下をくぐるトンネルは、マンボと呼ばれ、自然が生み出した景観と近代的な建造物の調和がみられます。



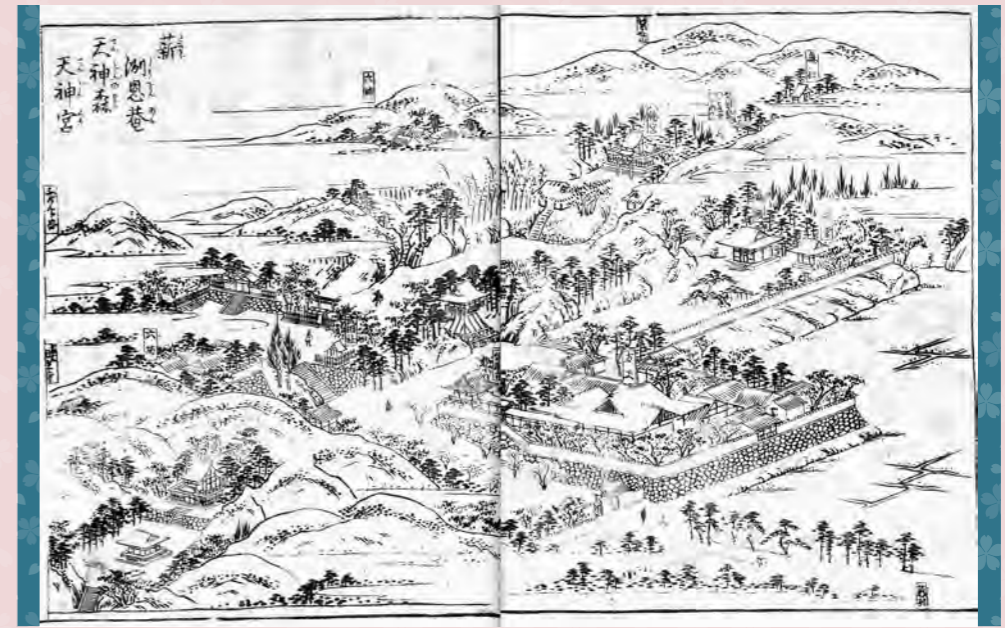
＊ 筒城宮跡の石碑

第26代天皇である継体天皇の筒城宮があったとされる石碑が、同志社大学京田辺校地のローム館横の丘の上にあります。『日本書紀』には511年に皇居を筒城宮に遷し、7年間過ごしたことが記されています。石碑は何度か移転していて、宮の正確な位置には諸説ありますが、同志社大学のある場所には「都谷（みやこだに）」という地名も見られます。京田辺が古代から重要な地であったことを示すものです。

京田辺観光動画マップ



この観光マップは、同志社女子大学の学生約500名のアンケートから、おすすめの場所をピックアップしたものです。裏面の地図上のQRコードをスマートフォンや携帯のカメラで撮影すると、学生が撮影した紹介動画を見ることができます。地図と動画を参考にしながら、歴史と文化のまち・京田辺を歩いていただければ幸いです。



江戸時代の京田辺

酬恩庵一休寺周辺を描いた絵図。現在と変わらない酬恩庵の境内の様子や、周辺の様子が読み取れる。

「都名所図会」巻五

京田辺を歩く

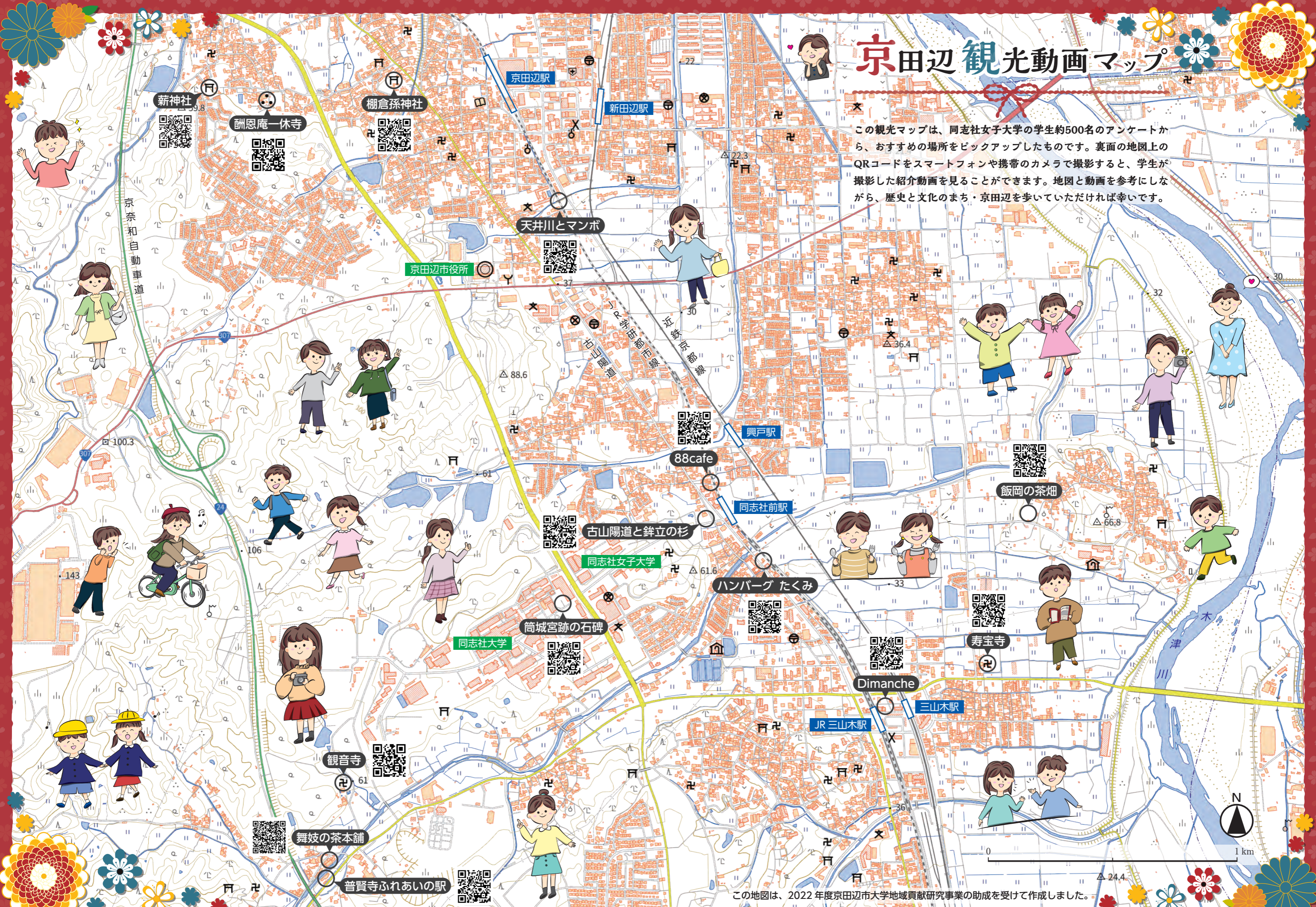
◀ JR京田辺駅から西へ10分ほど歩くと、小高い山の斜面に古刹が見えてくる。酬恩庵、一般的には一休寺と呼ばれるこの寺は、一休宗純（1394～1481）が草庵を再興し、80歳の時から田辺の地に住んだことが始まりとされる。一休は後土御門天皇の勅命で大徳寺住持に任じられていたものの、京都ではなくこの京田辺のちに住み晩年を過ごした。後小松天皇の皇子としての出自や自由奔放な言動でも知られていた彼は、のちに説話の主人公になり、「一休さん」としてアニメでも広く親しまれた。今日でも駅周辺には小僧姿の一休さん像が随所で見られ、京田辺のシンボルの存在にもなっている。

◀ 一休寺から南に3キロほど進むと、国宝十一面観音立像で知られる観音寺がある。今日では堂宇一つを残すのみだが、藤原氏一族、そして東大寺ともゆかりの深い歴史を有し、そのかつての大伽藍は奈良文化の象徴的存在でもあった。すなわち京田辺は、奈良と京都の文化圏の境界に位置していたのである。

◀ この地域の歴史の重層性を伝える一本の道が、この一休寺・観音寺2つの史跡を結ぶ形で存在している。現在のJR学研都市線や近鉄の鉄道線と並行に伸びるこの道は、かつて平城京に都が置かれていた時代に山陽地方を通り九州まで通じていた官道・山陽道の名残である。その古山陽道沿いには、継体天皇が営んだ筒城宮跡や、日本最初の駅家である山本駅跡、さらに神功皇后が出兵時に鉾を杉の木に立てかけ休んだ伝承に由来する「鉾立」という地名も今に残っている。そうした古代からの交通の要衝として重要な意味を有し、歴史的な街道に並行したJR・近鉄路線が基軸となっているのが現在の京田辺の地域構造といえる。

京田辺観光動画マップ

この観光マップは、同志社女子大学の学生約500名のアンケートから、おすすめの場所をピックアップしたものです。裏面の地図上のQRコードをスマートフォンや携帯のカメラで撮影すると、学生が撮影した紹介動画を見ることができます。地図と動画を参考にしながら、歴史と文化のまち・京田辺を歩いていただければ幸いです。



この地図は、2022年度京田辺市大学地域貢献研究事業の助成を受けて作成しました。